

告白にも似た私の気持 「この子を残して」

木下恵介監督からのメッセージ

本年度の文化行事として取り組んでいる映画、「この子を残して」は好評で、二十五日の統一行事日は満員の盛況でした。入場券は引き続き十月二十八日まで有効ですので、もれなく観賞ください。



再び悲惨な現実をくり返さぬためにと、全力を傾注した木下監督。

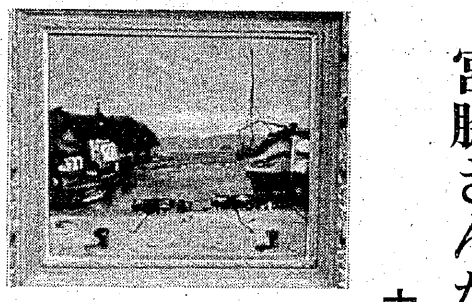
昨年は第二回国連軍縮特別総会に向けて、先進国の各地で核廃絶、反戦の声を高まり、その高まりを見せた。しかし私は、その声を力強い平和への希望としてばかりは聞けなかった。遂に叫ばずにはいられなくなった絶望的な高まりとも聞いたのである。それは多分、私自身が絶望的な気分になってい

た絶望感の底から、もう一度一言だけ言い残しておきたいような思いでこの映画を作りたいと思っ

人間の犯罪と罰と悲惨を、一九五一年、四十三歳で「くぐりた水井隆博」の著作をお借りして描こうとするものである。

「この子を残して」についての感想をお寄せください。

感想をお寄せください。



九月二十二日から二十七日まで大牟田市立第一ギヤラーで開かれた、藤屋美術教室第九回「一往展」に、宮脇好光さん(十分倉)が「天草深海港」(十号)、「カニ」(六号)、「根子岳」(八号)、「バラ」(八号)の四点を出品、いずれもなかなかの力作でした。

宮脇さんが出品 力作を四点

【一往展】

短 信

公選法改悪案

公選法改悪案は、これまで何度か改定、改悪されてきたが、自民党の今回の案は、「カネと努力の節約」を口実に、①選挙運動期間の短縮(衆院選は現行二十日を十五日、参院選は同二十三日を十八日に、地方選も同一日短縮)②立会演説会の全廃(一)などという内容。現行でも選挙時の言論活動は厳しく規制されていますが、これをさらに強化するもので、選挙の争点や政党の政策などが有権者に伝わる機会が減ります。知る権利への重大な挑戦です。

釣りの余談

最終回

五島釣行

石田 鈍 竿

思わぬところの巻

昭和五十二年二月、栢野、松岡両君と五島へ釣行した。一般の釣客と違い、栢野君の娘さんの嫁ぎ先である若松島が目的地で、宿舎の心配もなく、気分的にも旅行というムードを持った釣行だった。長崎港から福江、奈留島を経て奈良港へ。荒尾を基点にして、おちおち釣行した俺も五島は初めてで、船の中から見る磯が、どこもかしこも好ポイントに見えたものだ。行程五時間半。娘ムコさんが漁船で奈良島まで迎えに来て、定着した。その日は波が高く陸路で迎えにきた彼の案内でバスに変更した。隣りに乗り合わせたおばさんら、人なつこい顔で声をかけられた。「魚釣ですか」「はい。二は初めてですが、どっち向いてもよかとこはさっぱりですわ」俺が感じたことを正直に言うと胸を張って「おげんやかとこがどこにあるですか」といい、初対面の俺に「今日、叔母さんの葬式に奈留島からやってきました」という話から始まり、身内のことから周囲のことまで、行きすりの俺に、何年も交際して気を許した仲、というふうな感じで話をした。町の生活では考えられないことである。彼女の話を聞きながら、「わたし夫婦は漁師で、いつ

有明海に生息している魚介類(生カキ、トビハゼ、アゲマキ)からも除害剤CNP=MO=を抽出した、と九月十九日の『毎日新聞』が大きな報じていた。

水道水農薬汚染 調査と除去を

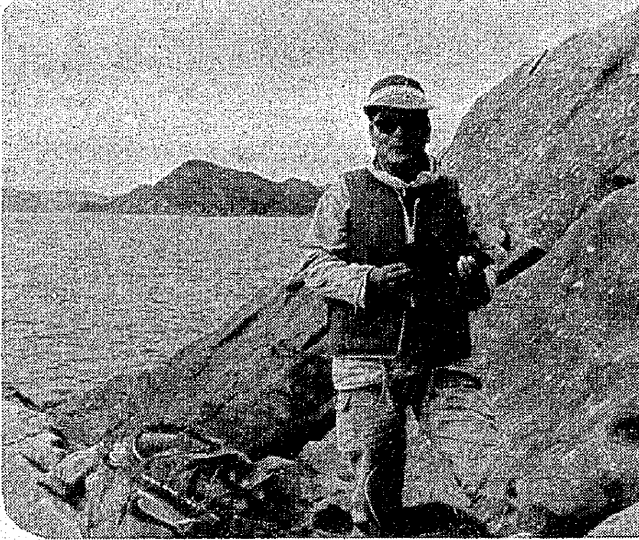
十六分会 武松輝男

水道水の農薬汚染の単位は一兆分の一という微量といわれている。しかし、こんど検出された魚介類の汚染単位は、十億分の一である。水道水の原水である河

川水に含まれた農薬CNPが、水道水の原水・河川水からみると、百八十八倍から一万三千六百七十倍という、途方もない高い濃度に濃縮されている。

「魚釣ですか」「はい。二は初めてですが、どっち向いてもよかとこはさっぱりですわ」俺が感じたことを正直に言うと胸を張って「おげんやかとこがどこにあるですか」といい、初対面の俺に「今日、叔母さんの葬式に奈留島からやってきました」という話から始まり、身内のことから周囲のことまで、行きすりの俺に、何年も交際して気を許した仲、というふうな感じで話をした。町の生活では考えられないことである。彼女の話を聞きながら、「わたし夫婦は漁師で、いつ

求すべきではないだろうか。であるから、水道水や河川水の農薬汚染が極微量だからといって、決しておぼろげにはいけな



「クロ」を手にご満悦の石田鈍竿さん。サングラスでごめん下さい。

三十四回にわたって連載してきました「釣りの余談」は、今号で終わります。長い間の愛読ありがとうございました。本号は特集です。連載中、字数の関係で原文のかなりの部分を削除しなければならなかったことをお詫言いたします。なお、筆者の石田鈍竿さんは、この連載途中で定年退職されました。ご健康をお祈りします。みなさんいろいろの体験や思い出を本紙にお寄せください。文章の巧拙は心配りません。